

第21回九州ブロック海外子女教育・国際理解教育研究大会 長崎大会

8月17日（金） 長崎大学 文教キャンパス スカイホール

1 開会 長崎副会長 楠本

2 あいさつ

長崎 会長 米原

- ・ 滝会長の言葉「フォトマス」知ってますか？ かざすだけで瞬時に答えがわかる。
- ・ 教師は人間性を培う仕事。使命を持って。
- ・ 国際理解教育重要・海外子女教育 重要。

全海研 久富雅仁

- ・ 全海研の仕事。
- ・ グローバル人材の育成にかかわって、英語教育を見据えながら、母語の教育も重要。
- ・ 興味関心をもたせること、教育の原点。
- ・ 本の発行。
- ・ 派遣教員の支援。

3 基調提案 上久木田 雄二

「他者とともに生きる国際社会人の育成」

- ・ 世界の在り様の変化→自らの人生をどのように拓いていくか？
- ・ 新学習指導要領の改訂
- ・ 国際理解教育の求めるもの→他者と共に生きる国際社会人の育成。

第1分科会

「在外教育施設における実践と課題」

協議

佐世保市立大塔小 竹井

Q 学力向上に関わって、日本でやってきたものと現地での指導に対するとまどいは？

A いちき串木野市立生福小学校 内山 茂幸

教材をその得ることが難しい(手作り)、視聴覚教材を使えるようになったことが強み、全国からの教員が集まるので情報交換ができた

久留米市立江南中学校 金子 尋紀

進路先の受験教科に社会科なし→社会科への興味が薄れる。入試のための社会科を教えていた→自己を振り返ることができた。教科書に出てくる言葉の難しさを痛感。

雲仙市立南串第二小学校 藤田 義則

理科の植生、天体は日本と異なる。ICTを使って日本の学習内容を学ぶ。

長崎市立北陽小

Q 教員として大切だと思われること、大変だったこと

A いちき串木野市立生福小学校 内山 茂幸

教師間の連携が第一。空き時間には授業を見に行き自己研修した。安全面、昼休みの見守り、保護者の迎えの際。

久留米市立江南中学校 金子 尋紀

コミュニケーションが一番。

雲仙市立南串第二小学校 藤田 義則

進度を気にする保護者が多かったので、毎週学年会を開いて確認した。学年会、現地採用スタッフとの連携を大事にした。

指導助言

福岡県久留米市立草野小学校 塚本 秀二

課題の共有

人員構成の変化(文科派遣、シニア、現採)、小模校・大規模校の違い、自然環境の違い

1 日本語指導について

日本語が話せない子への対応

→意欲をもって学べる工夫、必然性が必要、交流学习、日本語のシャワーを浴びせる

2 グローバル人材に関わって

・ニーズの二極化(現地理解教育の充実⇔日本と同じ教育、日本語)

・高度グローバル人材を育成する場として期待されている。(日本人学校が発信の場となる)

3 派遣教員の指導力向上

日本の学校も、在外の学校もともに発展していく。

第2分科会 小学校における外国語教育（等）

発表1 熊本県 江藤 展 先生 熊本市立月出小学校 10時08分～

主体的にコミュニケーションを楽しむ児童の育成を目指したカリキュラム
学びのサイクル、評価について説明
授業の様子のビデオ視聴
成果と課題

発表2 宮崎県 安藤徳光 先生 国富町立本庄小学校 10時30分～

シンガポール日本人学校小学校部クレメンティ校におけるでの外国語教育の実践発表
現地校との交流や体験活動、習熟度別授業、イマージョン水泳・音楽
成果と課題

発表3 長崎県 野口 亮介 先生 諫早市立森山東小学校 10時50分～

モジュール指導（連続型と同時進行型）と「書くこと」「読むこと」の指導について紹介
成果と課題

休憩 11時10分～

協議 11時20分～

質問 江藤先生に、評価方法について詳しく教えてほしいです。長崎県

江藤先生：月出小学校HPでもCAN-DOリストの活用

安藤先生：ワークシート（現任校）

野口先生：評価基準の作成の必要性 児童がどんな風になってほしいかをしっかりとイメージする

質問 野口先生に、アルファベットの書き順について指導を徹底していますか。鹿児島県

野口先生：いくつかの書き順があるために、学年で共通してひとつの書き順を指導。

ALTの先生と一緒に児童を見ています。

安藤先生：シンガポールでは、間違いをできるまで厳しく指導していました。

江藤先生：苦手意識を持っている児童が多いので、間違いを指摘するのではなく、ワークシートをファイルし、振り返ることで、自分自身で変化・成長に気づけるようにしています。

音韻認識が書く力を育てるのに有効ではないかと考えています。

質問 専科の先生、ALTと担任の役割分担について 長崎県教育センター

江藤先生：熊本では、担任が主導で授業を行なっている。略案に、役割分担を書いている先生もいらっしゃいます。

安藤先生：専科の先生はいないので、担任がやるしかない。

野口先生：ALT とのティームティーチングは、学習のめあてをしっかりと確認しています。今回のねらいをつたえることで、ALT がゲームを考えてくることもありました。

感想 長崎県 相庭先生

もっと多くの参加を期待できる発表内容だった。参加者を増やすための工夫が必要です。協議の時間も長くしてどうでしょうか。

指導助言 宮崎県 岡本 哲哉 先生 宮崎市立木花小学校 11時50分～

月出の学びのサイクルが、新学習指導要領の内容にぴったりと合っていることに感心しました。

授業改善は、授業力を高め、学力を高めるために必要なことです。

担任の先生が、英語を楽しく使っている姿が、将来、子どもたちが外国人と話してみたいという意欲を育てることができます。

英語を使わなくても困らない日本の生活だからこそ、教室の中では、英語を使う場面をしっかりと設定する必要があります。

留学生との交流活動を日本でも実践できると思います。

外国語活動で慣れ親しみ、外国語科でできるようにすることを目標にしています。

いつか気づくだろうではなく、指導すべきことは指導する必要があると考えています。

スモールステップで、コミュニケーション活動までもっていく指導計画を他の学校でも参考にしてほしいです。

アルファベットの指導は、児童の負荷すくない文字から教えるといい話を聞いたことがあります。

第3分科会

「地域や学校における国際理解教育の実践と課題」

沖縄県那覇市立上山中学校 上原 亮輔

発表の概要

①福州外国語学校との交流事業

本校では隔年で、福州外国語学校から生徒の迎え入れ、生徒の福州への派遣を行っている。昨年度は、交流会を催し、全生徒で異文化に触れることができた。

②一斉道徳（六論のところに学ぶ）の実施

道徳教育の重点目標として程順則の「六論」を位置づけ、郷土の発展に寄与した先人を正しく理解し、尊敬を深め郷土の発展に尽くす心情や態度を養うことを目指している。

③久米至聖廟における釋奠祭禮（祭祀行事）への生徒参加

毎年9月行われる釋奠祭禮は孔子の生誕を祝う恒例行事である。古式にのっとりて厳かに執り行われる祭禮において生徒が孔子の論語を素読する場面がある。総合や夏休みを活用した講習を経て、中国語で素読に挑戦予定である。

成果と課題

道徳や総合で地域の歴史や文化を学んだことで、自分たちのルーツを知り、それにより自尊心や自己肯定感を育むことができた。現在取り組んでいる国際理解教育の内容を充実させるためには、年間のカリキュラムに、どう位置付けていくかが課題である。

留学生との交流会を活用した国際理解教育の実践

大分県別府市立大平山小学校 佐藤成一郎

発表の概要

①「別府学」を活用した国際理解教育

別府市では地域のことを学ぶために、市教委が副読本を作成し、全児童生徒に配布している。3・4年生用の「別府学」には、「留学生～別府でくらす世界の若者」という項目があり、留学生との交流を促している。

②国語科の学習とつなげた国際理解教育

大分県の国際理解教育長期計画「教育県大分創造プラン」には、「グローバル社会を生きるために必要な総合力の育成」と題して、国際理解教育の重要性がうたわれている。それは「挑戦意欲と責任感、使命感の育成」「多様性を受け入れ協働する力の育成」「大分県や日本への深い理解の促進」「知識教養に基づき論理的に考え伝える力の育成」「英語力の育成」の5項目からなっている。「多様性を受け入れ協働する力の育成」、「大分県や日本への深い理解の促進」の2つの側面についての発表であった。

成果と課題

外国から来られた方から直接話を聞いたり、自分たちが調べたことを伝えたりできたことで、外国や外国人に対して身近に感じる機会になった。活動が単発になってしまっていることから、外国に対する理解を広げていくことが十分でなかった。

東彼杵町の特性を生かした国際理解教育

東彼杵町立千綿中学校 楠本 満

川棚町立川棚小学校 辻川 和彦

発表の概要

①東彼杵町の国際理解教育の取組

本校においては、1学期各学年1時間ずつ、道徳の時間を活用し、在外教育施設での授業の様子や現地の状況についての説明を行った。日本とは異なる生活様式、文化などを目にする事で海外への興味関心を高める一助となった。

②東彼杵町の国際交流事業の取組

これからの国際協調をもとにたまちづくりの中核リーダーを養成し、次世代を担う小・中学生を古くから長崎との交流があるオランダへ派遣することにより、異文化体験を通じて幅広い国際感覚を身に付けた人材育成を目指している。小学6年及び中学生を対象に募集を行っている。今回はシンガポールに12名の予定である。

③オランダ派遣事業の内容について

事前学習に長崎市の出島を訪問したり、「アンネの日記」に関する資料を読んだりしておくことで、事前の予備知識を得た。

成果と課題

町として壮行会や帰国報告会を実施することで、町民への啓発活動を行っている。子どもたちが交流する相手がすべて大人であり、同年代での交流ができなかった。

協議

長崎 西浦上 菊田先生

Q 中国との関わりを小中で活かしたものを将来どうつなげているか。国際社会人の育成の観点から教えていただきたい。

A 高校、大学でどういう取組をしているか調べたい。英語に対する興味は高いので、現地で働いている外国人と話すことにより幅が広がる可能性がある。外国の方と関わる機会を増やすことが大切。コミュニケーションスクールを活用し、地域学校の協同体制を構築する。

Q 明確には難しいが、国際理解教育の評価について

A さまざまな活動の中から生まれる感想などを活用する材料とする。どの教材で取り組んだかによって評価を行う。ただし、国際理解教育に関してのみの活動は取組みにくい。課題の一つである。行政が主導する取組については学校の評価を行っていない。

指導助言

大分県 大分市立南大分小学校 川野 修一

「何を学ぶか」「経験をすることの大切さ」を国際交流を通して学習する中での評価については個人の感想文だけでなく話し合いまで高める必要がある。「地域や学校の応じた活動」では学習資源を活用し、行政と連携することで効果が増す。今後、国際理解教育については、教育課程とつなげ、人権を尊重し、コミュニケーション能力を育成し、自国文化理解、異文化理解、そして国際協力、国際協調の視点を重視していかなくてはならない。

【第4分科会】 (記録者 日高文博)

〈研究協議〉

- 諸隈直子先生 (佐賀県) 「視野を広げ、主体的に考え行動する生徒の育成」
～中国山西大学附属中学校との訪問交流を通して～
- ・(長崎県) カリキュラムの大変はあると思うが、今回だけなのか。時数の確保や行事の取り扱いについても知りたい。
 - ・(発表者) 中国との交流は毎年行っている。時数は学校行事，中国語講座は総合。
 - ・(佐賀県) 中学校のグローバル人材は国際理解の中心，キャリア教育はやりやすいのでは？
 - ・(発表者) NPO法人を利用して町のを販売している。

- 安城学先生 (長崎県) 「平和教育と関連した国際理解教育」
- ・(長崎県) カリキュラムの大変はあると思うが、今回だけなのか。時数の確保や行事の取り扱いについても知りたい。
 - ・(発表者) 外国語大学との交流は3年間。中学との交流は1回のみ。時数は交流では総合の15時間を利用。150名のうちの30名が交流を行う。
 - ・(佐賀県) 中学校のグローバル人材は国際理解の中心，キャリア教育はやりやすいのでは？
 - ・(発表者) 学校教育と国際理解教育をリンクさせることはむずかしい。

- 三浦剛史先生 (長崎県) 「地域の特性を生かした国際交流」
- ・(長崎県) カリキュラムの大変はあると思うが、今回だけなのか。時数の確保や行事の取り扱いについても知りたい。
 - ・(発表者) 平和学習については学活と道徳，総合の時間を利用。徐幕式は休日。夏休みの宿題等でも利用。長崎市国際交流課の方を呼んで体験学習も行っている。

(全体へのご意見として)

- ・(佐賀県) 4つの柱の人間関係調整力が国際理解教育では求められる。国際理解教育は人と人が接することであり，関わりが大きくある。

〈指導助言〉 野中志朗先生（長崎県）

・ 諸隈直子先生（佐賀県）の発表について

学校が地域の問題に積極的に関わることは大切である。しかし、マンパワー不足。少子高齢化が進む長崎では今までの考えを変えなければならない。社会に開かれた教育課程が大切であり、人数が多くても人がつながらなければ、限界集落となる。故郷の自慢ができる子どもたちの育成が大切で、そういう教育が国際理解教育である。

・ 安城学先生（長崎県）の発表について

国際理解教育に関わる先生の意欲が感じられる。海外の現地の取組を日本に輸入することのできる大切さがこれからは求められる。平和学習と国際理解教育は当然つながっている。国際理解教育と日頃の教育がつながっていくべきである。地域で困っている外国人を助けられる日本人の育成をしたい。

・ 三浦剛史先生（長崎県）の発表について

理科的な発表。自分の切り口で、地域をよく知っている。これはとても大切なことである。「もの・ひと・こと」がとても大切で、今の子どもたちが自分の地域を故郷と感じられる教育が求められる。シンクローカー → アクトローカー。地元を見つめることの大切さが求められている。

・ 今回は「交流」としての点としての発表である。これだけでなく「人権教育」に結びつけられる教育にならないといけない。教育は「人権」でつながっている。

どんな子供像を目指すか。行動目標の姿。〇〇ができる姿。日頃やっている姿に戻っていけばよい。答えは1つとは限らない。答えはないかもしれない。国際理解教育の答えは教員。教師も一緒に学ばなければいけない。

今後目指していくのは、「気付く」だけではなく、「構築する」である。子どもたちが主体者（担い手）となる。

講演「小学校外国語の教科化について」国際理解教育と新学習指導要領

長崎大学大学院教育学研究科 中村 典生

1 新指導要領の目標に見る異文化理解

国際理解の理念はしっかりある

2 煮込み定食の謎

- ・ 定食屋で 煮込み定食のなぜ？ 何の煮込み？ つくばでは豚モツ
岐阜では味噌煮込みうどん

→身近な異文化を知る 自分を知る・相手を知ることにつながる

- ・ 魚の絵を描くと… 慣れ親しんだ魚によって違うこともある 美しき誤解
- ・ 泳ぎに行こう ・お雑煮

→比べることで、あたりまえじゃないとわかる

国際理解の本質 比べて違いに気づく 自分のこととして

3 言葉の中にある文化

(物事をとらえるときに、どこにこだわって言葉を切り出すかが、その文化になる)

世界を分節化するために言葉を使っている。人と人が理解しあうには言葉が重要。
だから・・・言葉を理解することは大事。そして自分の文脈に返してあげることが大事。

- ・ 北海道では手袋は履く ・中村でした ・絆創膏カットバン、サビオ、リバテープ
- ・ 靴下の穴 じゃやがいも、オハヨー靴下 ・今からくるけん
- ・ ブラザーとシスター ・焼くの英語 bake burn toasta… 英語圏は過熱調理にこだわるから cook は過熱して調理すること ・イヌイットの white

4 ことばの発達と異文化理解

共通の部分、異なる部分 隣にいる人は自分と違うと思っていない

5 グローバル化と AI

- ・ AI は言葉の意図を理解することは苦手。
- ・ 語学教育、英語教育は相手の意図を理解しようとすることを教えていく。AI ではできない。

6 英語教育における連携の意義と移行期の概況

- ・ 高い山を築こうとするなら裾野を広くしておく必要がある。

7 新学習指導要領・新教材の視点

- ・ コミュニケーションを目的とするものか(目的・場面・状況)、構文の練習なのか。
- ・ 生きてはたらく知識技能、未知の状況でも切拓いていける。覚えて終わりじゃない。だから、目的、場面、状況を考えた指導を。
- ・ 新教材は目的が書いている。「すなあそびをしよう」
- ・ ネイティブは不規則変化動詞を先にしている。使用頻度が高いものが多い。
- ・ 小学校では動詞の活用はしない go-went-gone。

- ・ 不定詞もやっている。小学校で音を入れてやる。中学校で理解。
- 8 読み書きの指導をどうするか
 - ・ 聞く―話す―書き写す―読む―書く
 - 9 定着と小学校教員に必要な英語力
 - 10 これから10年の課題―誰がどう教えるか